

代表質問及び一般質問

3月8日に各会派を代表して、香川努、近藤賢司（七宝会）・瀧本文子（日本共産党）の3名の議員が代表質問を行い、9日・12日には10名の議員が一般質問を行いました。

七宝会

19年度基本姿勢について

質問 地方分権が進展する中、市民と行政の新たな関係の具体的な施策は。

答弁 時代の流れは、中央から地方へ、地方から地域への地域内分権であり、今年度はプロジェクトチーム「地域内分権推進室」をつくり、具体的施策を検討し、実施に移していきたい。

財政運営について

質問 財政運営について、健全財政に向けての取り組みは合併の目指すところである。人件費の抑制と、合併特例債の活用は。

答弁 「合併して良いことがない」のではなく、「確実に市政は好転している」ということであり、旧町では出来なかった改革である。

給与の一律カットは、この合併の混乱期を乗り切ってきた多くの職員に報いるために

も今回は行う予定はない。

合併特例債の活用は、世代間で共有する学校や道路など、市政発展のために必要。

庁舎問題について

質問 庁舎問題については、行財政改革調査特別委員会、総務常任委員会、全員協議会で議論した。現庁舎は、第2・第3庁舎の老朽化、分散した配置上の問題などがあり、高瀬の庁舎を仮庁舎とすべきとの結論になった。市長提案する考えは。

答弁 市役所建設は合併の意旨に逆行する路線であり、あり得ない選択である。既存施設の有効利用を図るのならば、本庁舎の在り方を早期に決定し、職員の仕事効率を上げ、市民サービスの向上を急ぐべきだとのことで、議会としての結論が出されたと考えている。議員提案で決定されたならば、実現に向けて精力的に努力したい。

土地開発公社について

質問 開発公社について、陣

山工業団地高瀬工区の計画と、原下工業団地の現状は。

答弁 陣山工業団地については、現在、近隣に進出している企業からそれに併設して更なる工場の増設の意向が示されたので、鋭意検討し地元説明会をお願いしている。

原下工業団地について、刑事面では公社の関係書類を県警察本部捜査2課に提供し、裏付け捜査が行われていると聞いている。民事面については、総額5,839万円余の損害補償請求等の訴えを、3月20日までに高松地方裁判所丸亀支部に起こす予定である。

クリーンセンターについて

質問 クリーンセンター問題は、巨額の財政負担を伴う。現在の炉はあと6年で契約が終わる。三観広域組合で協議中であるが、市長の考えは。

答弁 環境に対する市民の意識、地球温暖化問題の重要性も大きく変化している。ゴミ処理施設の技術的進歩も顕著なものがある。早急に結論を出していきたい。

寿工芸跡地周辺、三豊市の基幹道路整備に向けて

質問 寿工芸跡地に隣接する豊中市市計画道路、笠田本山線の国道11号線拡幅工事の着手と、その周辺の県道・市道・生活道整備についての考えは。

答弁 国道11号線4車線化の拡幅工事につきましては、豊中町笠田笠岡南から、観音寺市本大町井出北までの4・6キロメートルの都市計画決定が本年3月にされました。県道本山停車場線・羽方豊中線で計画しております823メートルの改良計画は、平成20年度に完了の予定。市道市道線改良事業、交差点までの事業は平成19年度完了予定。



〔県道本山停車場線〕

市営住宅管理事業について

質問 安全で快適な生活を支える、定住基盤充実のまちづくりの中で、市営住宅の老朽化に対する整備及び改修計画は、長期の計画として実施されるのか。

答弁 新たな供給は行わず、高齢者・障害者等に対応した住環境の整備や、安全・安心・快適な生活基盤、入居者の適正化による的確な供給、老朽住宅の整備改修に努める。

農林水産業の振興施策は

質問 中山間地域等直接支払制度及び漁港改修事業の内容と進捗状況、今後の計画は。

答弁 中山間地域等直接支払制度として、高齢化が進展する中実施していた高瀬町・財田町に加えて、平成18年度に仁尾町、平成19年度に山本町が実施予定である。

漁港改修事業については、単独県費補助事業・高潮等対策整備として、一日も早い完了に努力する。

日本共産党

大型商業施設 交通渋滞・通学路対策は

質問 六ノ坪交差点の交通渋滞対策と周辺の道路整備、特に小中学生の通学路となる歩道設置対策は。商業施設閉鎖の事態に備え、一定期間の予告・事前協議・代替措置など協議の必要性あり。周辺商店街（高瀬等）の空洞化対策は。



〔中山間地域等直接支払制度(財田町)〕

地域医療の充実について

質問 市立病院と民間医療機関との役割分担や連携と、地域医療の充実について伺う。

答弁 今後、市の医療機関のあり方・方向性について検討会を新たに設置して、医療・保健・福祉行政を担う市立の地域拠点病院として、適切な医療等のサービスを提供するには、地域の民間医療機関との役割分担と連携が必要不可欠である。



〔国道11号六ノ坪交差点付近〕

ないか。ゆめタウン進出は新しいビジネスチャンスととらえ、地域全体の底上げを期待する。

庁舎移転の条例改正 計画性の欠如・住民サービス低下

質問 豊中町から高瀬町に実質移転するもので、議員提案となつているが、市の最重要事項であり執行部提案とするべき。計画性の欠如と住民説明の不十分さ。移転後、会議室の不足・すし詰め状態・庁舎機能の分散化・駐車場対応など、現状（豊中庁舎）と変わらない状況で移転の意味がない。移転費2億円に加え駐車場整備の財源は。また、移転に10カ月かかるが、住民サービス低下の対応策は。

答弁 行革のスピードを上げるための議員提案と考える。将来的に高瀬庁舎に全職員が入れる規模になる。移転費用は合併支援金を活用。駐車場は近辺市有地を利用し、370台分確保する。

原下工業団地 責任の所在を明確に

質問 原下工業団地の造成事

業をめぐる、旧高瀬町土地開発公社で5,800万円余の使途不明金が発覚。その後の経緯は。また、何も知らず合併した町としてやりきれない気持ち。不明金について、旧高瀬町議会・理事会の責任をきちんと整理する必要あり。情報公開して、市民に説明責任を果すこと。

豊中町水道水 水質対策と料金は

答弁 民事・刑事両面で提訴を準備中であり、真実の解明と市民への説明が第一である。市民の血税が機関決定なく使われたわけだから、徹底してそのお金は返していただく。

質問 豊中町水道水の水質改善の必要性と対策は。県内8市中一番高い水道料金の見直し、豊中町との料金格差の問題への対応。出来るだけ安い水の供給を基本に検討を。

答弁 19年度クリプト対策として、ろ過処理施設を設置予定。出来る限り料金を下げる方向で、料金統一をはかりたい。未対応の財田町も検討・計画をすすめる。

三豊市合併一周年
記念イベントについて

横山 強 議員

質問 合併記念イベント計画が、19年度の予算に盛り込まれているのか。

答弁 予算化はしていない。

質問 市は19年度に合併一周年記念イベントを、開催する意思はあるのか。

答弁 「三豊市合併一周年記念」と冠をつけたイベント各種行事については、市の主催する行事・催し物、また関連する各部門において、今後も積極的に取り組みたい。

質問 記念イベントを開催する場合の開催時期を伺う。

答弁 個々の施設において、若干の冠事業を予定しているなかで、マリンウエーブで芸能文化面の催し物を予定しているが、一周年記念イベントについては、市民側から何らかの御提案等があれば、今後の進展も見ながら考えたい。

質問 全町民が参加出来るスポーツ祭を開催しては。

答弁 市民から動きが起ることを期待し1年間見守りたい。

三豊市の「理想的な火葬場」
のあり方は

小林昭武 議員

質問 山本財田斎場に2炉、豊中斎場2炉、香田火葬場2炉、七宝斎苑に3炉、高瀬火葬場が3炉と、計5カ所12炉に対する管理運営実態を尋ねる。

答弁 年間実績は、高瀬が193回、豊中122回、香田207回を委託管理とし、1体当りの火葬経費は約4万8千円、また七宝が193回、山本財田167回を直営管理とし、1体当たり約6万5千円の経費が掛かっている。

質問 今後へ向けて、地域性・利便性・経済性・立地条件等から判断する、理想的な火葬場のあり方を尋ねる。

答弁 火葬場利用者側の選択を柔軟に対応出来るよう努力すると共に、単に老朽化建物を建て替えるだけではなく、将来的には、三豊市を1カ所統一が出来るような、合併特例債を利用した大規模火葬場建設が理想と考える。

消防分署の統廃合について

為広員史 議員

質問 烏インフルエンザの人の感染防止策について伺う。

答弁 人への感染経路については、病気の鳥と接触して、羽や粉末状になった糞を吸い込んだり、その鳥の糞や内臓に触れた手を介して鼻からウイルスが入った時に感染する時がある。本市でも、県において87施設の全養鶏農家に対し立入り検査を実施し、安全を確認した。

質問 三観広域消防署の統廃合をどのように考えているか。

答弁 消防署・分署の整備計画は今のところ未定ではあるが、今後整備するのであれば、消防署・分署の位置については検討の必要があると考える。素案の素案として、現在の5カ所を観音寺市に1カ所、三豊市に2カ所にする案が検討されている。

質問 いかに厳しい財政下であっても、消防・救急の観点から現在の5カ所体制を厳守するべきだと思つ。

遊休施設について

城中利文 議員

質問 施政方針中「公共施設は、全体的に利用率が低く、その数も有り余っている」とあるが、今後の利活用の基本的姿勢を伺いたい。

答弁 民間活力を導入したいが、このご時世において簡単ではない。もう少し時間をかけて検討したい。

質問 支所における遊休スペースの利活用の考え方は。

答弁 本市のあり方を決める重要案件である。具体的なものはまだ無いが、支所も含め市内の施設はすべて市民のものであるとの共通の意識を強めていくことが今後遊休施設の利活用にとって欠かせない。

質問 旧仁尾町の元国民宿舎「つたじま荘」の今後の利活用について伺いたい。

答弁 仁尾地区は観光資源では三豊市一のものをもっていると思うが、直接宿泊施設に結びつくにはたやすくはない。大きな観光政策の中で市民皆様方と議論し検討したい。

入札制度について

詫間政司 議員

質問 福島、和歌山、宮崎県等で発覚した談合事件で、地方自治体発注の公共工事に対する入札制度の大幅な見直しが進められている。この現状の中で、2点質問する。

下高瀬小学校に関する他工事の落札率が80%前後にもかかわらず、機械設備工事のそれが99.63%の結果をいかがお考えか。

入札制度の現状と今後の方向性をいかがお考えか。

答弁 下高瀬小学校機械設備工事の入札は、規則に基づき適性に執行されたと認識しているが、合併から1年間経過し色々な問題点が露出ししていると素直に反省している。

今後、透明性と競争性を確保した適正な入札・契約事務を執行すべく「三豊市入札制度改革案」を新しく策定し、改善を図ってゆく。

19年度からしっかりと改革案で、他市にも決して負けない形を作って行きたい。

地産地消と三豊産の
ブランド作りと水道行政

川崎秀男 議員

質問 松下寿跡地の大型商業施設「ゆめタウン三豊」の出店に伴う諸問題の窓口と、企業との共存するための農産品の三豊産ブランド作りをどう考えているのか。

答弁 「ゆめタウン三豊」における地産地消、また「ゆめタウン」70店舗をネットワークとした三豊市の産物を販売したり、情報発信する地産域消という考え方を進めたい。

質問 三豊市の水道経営について、10力年の水道基本計画策定の中で主な問題点とその基本的な柱を何に置き、どうしようとしているのか。また漏水対策について伺いたい。

答弁 水道事業の目的は「安全で豊富な水を安く供給すること」なので、合併後1年間のデータをもとに、10力年間を見据えた「水道事業計画」を作成中である。

漏水対策は、県内8市の状況を調べ、調整・検討を加えていきたい。

行政改革を進める上での
「これまで」の説明責任

大平敏弘 議員

質問 節約・改善の発想を超え、「これまで」という意識を打ち切り、「これから」を考えたいと言われても、市民は釈然としないのではないか。これまでの説明責任の機会を、国会議員を交えて、もつべきと思うが。

答弁 横並び主義・先送り主義・日和見主義、いわゆるお役所体質・お役人根性の「これまで」を断ち、「市民の幸せのために」というただ一点のみを考え、突き詰めていく「これから」を作る職員の意識改革がもっとも重要である。「これから」を具体的に進めていく上で、「これまで」を検証したい。

国会議員については要請してみたい。

学童保育のあり方

質問 三豊市学童保育の創造を。

答弁 既に動き始めた創造の動きを受け止め、より良く進めたい。

駐車場用地の確保について

藤田芳広 議員

質問 松下寿工芸跡地売却が決定し、職員駐車場の確保は今後どのように計画しているのか。代替地を検討中ならば、具体的な内容をお聞きしたい。

答弁 代替地は市役所南側に4,500㎡を借地し150台分の駐車場を造成する。地代は年間120万円程度とし、1年契約の自動更新とする。現在の本庁・支所としては最大300台分が必要であるが、今後の職員配置の状況を勘案し増加検討をする。

質問 職員駐車場は現在も使用料は徴収していないが、今後その方針は変わらないのか。行財政改革推進の中で、昨年9月議会で市長は職員の意識改革と受益者負担の観点などで、徴収に向け早期に検討する旨回答あるも再度伺う。

答弁 駐車場使用料負担の問題は、各支所及びその他施設とのバランスと県内他市の状況を見て総合的に判断し結論を出したい。

市民大多数が批判する市行政改革大綱を創った人とは

三木秀樹 議員

質問 三豊市行政改革大綱に80%の市民が批判のコメントを寄せている。その大綱等を作成した中心メンバーである学識経験者と言われる会社役員等は、どのような専門知識をもっているのか。

答弁 企業改革や組織改革にたずさわり、三豊市の進むべき筋道の提言を受けている。

質問 委員会での学識経験者の発言は問題だ。学校統廃合討議で、教育長が「小中学校は地域の避難場所。耐震補強をまず行う。統廃合は、子供の理想をふまえて検討委員会に諮る」と対し、彼らは「子供の理想を議論しても答えは永遠に出ない。統廃合するのになぜ耐震補強するのか、無駄ではないか。統廃合問題は、20年度末で結論を出し、21年実施」と高慢・強権である。市長の考えは。

答弁 高い理想をかかげ心強い励ましの言葉と理解する。他に4問、質問しました。

市政は住民こそ
主人公の視点で

岩田秀樹 議員

質問 4月実施の全国学力テスト、試験問題と「質問紙」を配布し、通塾状況・生活習慣など92項目を聞くのは、個人情報保護の観点や文部科学省の調査目的であれば、無記名でよいのでは。

答弁 教育委員会として参加を決定した。質問紙の内容は生活環境との関係係で結果を判断するために、名前を記入するようにとの判断である。

質問 総世帯の59%が加入している国民健康保険は、定率減税の廃止など見せ掛けの所得増により、国保税が値上がりになっていく。税制改正による自然増収は低所得者対策としての減税・減免を実施すべきであると考え。

答弁 市は低所得者への負担の過重を避け、7割5,310世帯)5割(780世帯)2割(1,690世帯)減免を行っている。